



## 大学医学図書館における選書の一例

押田 いく子

### I. はじめに

質の高い図書館サービスを提供するためには、利用者のニーズに合った蔵書の維持管理が必要です。選書はその中心となる仕事で、選書業務の積み重ねが蔵書の内容を決定する重要な仕事です。

医学図書館の蔵書には2つのことが要求されます。それは、利用者の幅広い要求に応えるために基本的な資料がバランスよく整備されていること、そして、利用者から要求があった場合にすばやく提供できるよう、最新情報もあらかじめ準備されていることです。

本稿では病院図書館における選書の参考となるように、大学医学図書館における選書について、東邦大学医学メディアセンター（以下、当館）の事例を中心に紹介します。

### II. 選書

「病院における医学図書館の選書：選書方針と蔵書構築」<sup>1)</sup>でMC Hardyは、選書業務を次のように表現しています。

- ①必要なものを決定し
- ②すでに所蔵しているものを知り
- ③入手可能性を確認し
- ④要求に最も合った資料を選択すること

選書担当者の仕事は、日々出版される図書の中から利用者のニーズに合ったものを選ぶことです。しかし、実際は利用者ニーズにあった図書でもすべてを購入できることはあまりなく、

予算や収納スペースなどの都合で、その中からさらに選んで購入する図書を決定しなければなりません。選書業務は、購入の優先順位をつける仕事であるともいえます。

選書に際して、図書館運営や蔵書構築などに関する基本方針を明確にしておくことによいでしょう。方針が成文化されていればなおよく、その方針によって毎日の仕事を無理なく継続して進めることができます。

第IV章で当館の選書業務の実例を紹介しますが、その前に、選書を取り巻く環境について病院図書館の場合を想定して確認していきます。

### III. 選書を取り巻く環境

#### 1. 利用者

現在と、近い将来の利用者ニーズの把握と予測のために、病院の管理部門が発行する年次報告書、院内報その他に目を通して以下のようなことを確認しておきます。

- ①病院設立の精神、経営方針
- ②診療科、検査室、その他関連部局の業務内容
- ③病院で行われている研究活動のテーマ
- ④病院で行われている地域サービスの内容
- ⑤入院や外来の患者に関する統計情報
- ⑥研修医教育の内容
- ⑦職員研修の内容など

その他、医学・医療系学会・業界の動向などの社会的背景を把握しておくことも有益です。また利用者と直接対話し個人レベルのニーズも把握しておきます。

#### 2. 図書館員

「蔵書構成と図書選択」<sup>2)</sup>で河井弘志は、図書

おしだ いく子：東邦大学医学メディアセンター  
ikuko@mnc.toho-u.ac.jp

選択者に望まれる最も重要な要件として次の4点をあげています。

- ①図書に関する知識
- ②主題の知識
- ③利用者についての知識
- ④蔵書内容の把握

また前掲の MC Hardy は、専任の図書館員が選書方針にそって選書をした場合の利点として次の3点をあげています。

- ①選書に一貫性がある
- ②調和の取れた質の高い蔵書が作れる
- ③図書館員が交代しても方針は引き継がれる

当館では「選書・受入基準」(後述)を作成し、それに沿って選書を行っています。この基準では、選書は利用者と図書館員とが協力して行うこととしています。なぜなら、利用者は資料に対する強いニーズと、医学の専門家としてその分野の資料の評価能力を持っており、一方、図書館員はすべての利用者のニーズを把握できる立場にあり、豊富な出版情報を持っているからです。また、自館の蔵書内容も把握しています。

### 3. 選書委員会

大学図書館の中には、選書委員会による選書が行われている例があります。教授会メンバーなどの中から選ばれた教員によって組織された委員会が、図書館があらかじめ用意した対象図書リストや見計らい図書などの中から購入図書を選択するというシステムです。この制度には長所短所があり、当館では、いまだかつて選書委員会制度を採用したことはありませんが、委員会が効果的に機能した場合は、専門家による選書の強みを最大限に生かすことができ、質の高い選書結果が得られます。

選書の最終決定が選書委員会で行われる場合でも、図書館員は選書に関与しないというわけではありません。図書館員にはこの制度を効果的に機能させるための役目があるので、選書の補助資料として必要と判断したら、蔵書の利用状況に関する統計データ、蔵書の中の類書に関

するデータなどを選書委員会に提出します。

### 4. 図書館相互協力

選書は、購入する図書の優先順位を決める作業であるとして述べました。たとえ定評のある専門書であっても、予算や利用頻度予測などから判断して購入できないこともあります。その場合、相互貸借などによって入手可能なら購入見送りという決定もあり得ます。図書館は、自館の利用者のニーズに自館の蔵書だけで応えることは不可能なので、選書も図書館間の相互協力を念頭において行います。

## IV. 図書館員による選書の実際

当館では1993年に、それまで行われていた方法を成文化して「選書・受入基準：図書・AV資料の部」(以下、「選書基準」)<sup>3)</sup>を作りました。2000年に改定を行い、現在2度目の改定中です。この基準は8項目で構成されており、誰が、どのように、何を選択するかについて規定しています。

当館の選書は図書館員と教員とが分担して行っていますので、この章では図書館員による選書の新刊和書選定の例を中心に紹介します。なお、当館の2005年度資料購入費のうち図書購入費は1,425万円で、ここでご紹介する図書館員による選書のための年間予算は450万円です。

### 1. 運営方針、選書基準の確認

選書は毎月1回(場合によっては2回)行います。毎回以下のような順序で情報を確認し、購入図書を決めていきます。この時点で、図書館の運営方針、利用者のニーズ、「選書基準」の内容についてはすでに確認済みです。

#### (1) 今回選定分の金額の目安を決める。

年間予算450万円を1年間かけて支出するので、それを12等分して、毎月の新刊購入費の概算を決めておきます。こうすれば年度末に予算が余って無理な選書をしたり、逆に必要な図書が出版されても、すでに予算を使い切ってしまう購入できないといったことを予防できます。しかし、金額はあくまでも目安として柔軟に運

用します。一例をあげると、出版社は、新学期には消費者の購買力を意識して、辞書の出版や定評のある図書の改訂などを行うので、この時期には質の高い図書が数多く出版されます。必要な図書は目安を超えても購入し、その後調整して年度末に予算総額を使い切るようにします。

(2) 選書ツールに目を通す

選書担当者は、出版社、書籍販売業者、洋書輸入業者等から、郵便、宅配便、FAX などによって日々送られてくる新刊案内に目を通しておきます。また、インターネットで提供されている出版社、販売業者、学会、患者会などのサイトにも適時アクセスして、出版物に関する最新情報を確保しておきます。

(3) 選書ツールの中から選書対象図書リストとして使うものを選ぶ

新刊案内には次のようなものがあります。出版社が作成した単品のパンフレット、出版社がその月に発行予定の自社商品をまとめて紹介したリスト、図書販売業者（卸売・小売業者）や洋書輸入業者が自社の取扱商品を紹介したリスト、書評誌などです。

図書販売業者が作成している新刊案内にはその月に出版予定の医学書情報がほぼ網羅されているので、当館ではこれを選書対象図書リストとして用いています。リストにはそれぞれ特徴がありますが、2社のリストを定番の基本資料として使っています。必要に応じて他社のリストを併用することもあります。

(4) 図書の選択

新刊案内に掲載されている図書について購入するかしないか決めていきます。

選書対象図書リストとして望ましいのは、書誌事項だけでなく内容解説文がついているものです。書誌事項だけのリストの場合は、パンフレットやインターネットで提供されている内容情報を併用します。

i) まず小型図書を除外する

A 6 版以下の小型本、新書版、文庫本などを

購入対象から除外します。しかし、これは場合によって臨機応変に対処する必要があります。ある学会発行の診療ガイドラインがポケットサイズでしか出版されないことがわかり、選書基準には反しますが、例外として小型図書の購入を決定したことがあります。

ii) つぎに資格試験問題集などを除外する

これらは個人で購入し、書き込みをしたり、常に携帯して利用することなどを想定して編集されているものなので、図書館の蔵書には適さないという理由により除外します。

iii) 指定図書の改訂版があれば選択する

「選書基準」で、学習指定図書（後述）の改訂版は全て購入すると規定されているので迷わず選択します。

iv) さらに購入図書を選択する

選書対象図書リストの内容解説文を読んで1点ずつ判断していきます。「選書基準」のほかに「図書・雑誌の評価の基準」（表1）なども参考にし、選択するかしないか決めます。

表1. 図書・雑誌の評価の基準

- |   |
|---|
| 1. タイトル：内容を正しく表現しているか                           |
| 2. 著編者名：同じ著編者の資料を所蔵しているか、それは利用されているか            |
| 3. 出版社：定評ある出版社か                                 |
| 4. 出版年：新しい出版物か、増刷か                              |
| 5. 価格：リーズナブルか                                   |
| 6. サイズ：ポケットブックなどではないか                           |
| 7. 言語：日本語または英語か                                 |
| 8. 内容：利用者の関心のあるテーマか                             |
| 9. 記述の深さ：概説書か入門書か研究書か                           |
| 10. 情報の適切さ：統計データは新しいか                           |
| 11. 改訂版：改定を重ねて定評を得ているか、旧版を所蔵しているか、それはよく利用されているか |
| 12. 引用：よく引用される資料か                               |
| 13. 相互貸借の申し込みが多いか                               |
| 14. 索引誌の収録対象誌か                                  |
| 15. インパクトファクター値はどれくらいか                          |

選書の責任は選書担当者にあるのはいうまでもありませんが、カウンターで常に利用者に接しているサービス部門の司書や相互貸借担当者、整理部門の司書などの意見は大変参考にあります。

## 2. 選書ツール

新刊書選定の際によく利用する選書ツールを紹介します。

- ①「JMPA 医学書情報」月刊 日本医書出版協会 21cm 平均8頁 Web版のURLは <http://www.medbooks.or.jp/>
- ②「丸善医学新刊情報」月刊 丸善株式会社 A4版 平均17頁 約80文字の解説付き
- ③丸善インターネットショッピング <http://www.maruzen.co.jp/>
- ④Kinokuniya BookWeb 紀伊国屋書店 <http://kinokuniya.co.jp/>

## 3. 蔵書構築のためのリスト

当館では蔵書構築のために以下のようなリストを編集していますが、これらは選書ツールとしても役に立っています。

### (1)「学習指定図書」

当館には学習指定図書の制度<sup>4)</sup>があり、2003年4月に「学習指定図書第7版」(B5版104頁4年毎に改定)を発行しました。また、学習指定図書のうちの学生用必読指定図書の部分については毎年改定を行っており、2005年5月に「学習指定図書A項2005年版」を出版しました。これは、当館のホームページからも提供しています。( <http://www.mnc.toho-u.ac.jp/mmc/> )

この制度の特徴は、学生用の図書だけでなく研修医のための学習用図書、教員自身が講義準備に用いるその分野のコア・ブックなども推薦されることです。

原則として全指定図書を所蔵する、改訂版が発行された場合は必ず購入する、学生用必読指定図書(学習指定図書A項)は副本を所蔵する等が決められています。したがって、この制度の継続が必然的に学習・教育活動における学生と教員の最新ニーズの把握につながり、その結

果「学習指定図書」リストは自家製選書ツールともなっています。

### (2)「定期購入参考図書」

医学以外の主題分野の参考図書は、改訂の頻度が医学書とは違うため改訂版購入のタイミングを逃してしまうことがあります。このリストを年1回チェックして購入漏れを防ぎ、同時にリストに新たに加えるものを検討し、必要に応じて追加します。

## V. コア・ブック

以上、医学新刊和書の選書について当館事例をご紹介しましたが、冒頭で述べた医学図書館蔵書に期待されているもう一つの事柄である基本的な図書の整備について付記します。

通称ブランドン・リスト<sup>5)</sup>は、過去40年にわたって米国の現役の医学図書館員が選んで発表してきた小規模医学図書館のための推薦図書リストで、信頼できる選書ツールでした。2001年からはインターネットでも紹介されていましたが、2003年に発表されたリストを最後に、今後は更新されないことになりました。

このリストで紹介されている図書はどれも定評のあるその分野の代表的な教科書なので2003年の情報ですが十分参考になると思います。このリストと自館の蔵書を照合して必要なものを追加し、その後改訂版を購入していけば蔵書の基盤の一部となるでしょう。

### 参考文献

- 1) Hardy MC. 関東地区医療情報ネットワーク化実行委員会訳・編. 図書館資料の選択. 病院における医学図書館の選書: 選書方針と蔵書構築. 東京: 日本医学図書館協会関東地区医学図書館協議会 病院図書室研究会; 1994. p. 3-12.
- 2) 河井弘志. 図書選択者に望まれる基本的要件. 蔵書構成と図書選択. 東京: 日本図書館協会; 1992. p. 253-7.
- 3) 押田いく子. 医学図書館の蔵書構築, 日赤

- 図書館雑誌. 2004 ; 11 (1) : 21-4.
- 4) 押田いく子. 蔵書構築のための選書リスト  
「学習指定図書」. 医学図書館. 1995 ; 42 (1)  
: 62-8.
- 5) Hill DR, Stickell HN : Brandon/Hill selected list of print books and journals in allied health. Journal of the Medical Library Association. 2003 ; 91 (1) : 18-33.